

# 信州大学教育学部同窓会 赤煉瓦館

## 1. 「赤煉瓦館」の歴史

「赤煉瓦館」は明治時代に長野県庁書籍庫として建てられました。その後、長野師範学校書籍庫、信州大学教育学部書籍庫の役割を経て、平成 29 年に信州大学教育学部赤煉瓦館として生まれ変わりました。「赤煉瓦館」に関わる歴史を以下に紹介します。

- 明治 28 年 長野県庁の書籍庫として誕生。
- 明治 41 年 県庁舎の火災で、唯一焼失を免れる。
- 明治 44 年 長野師範学校が譲り受け書籍庫に。  
※約 18,000 冊を蔵書（明治初期の教師用資料，教科書，洋書等を保管）
- 昭和 24 年 信州大学教育学部 発足。
- 昭和 62 年 信州大学教育学部同窓会 発足。
- 平成 20 年 国の有形登録文化財に登録。
- 平成 26 年 長野県神城断層地震の被害で書籍庫として使用できなくなる。
- 平成 27 年 信州大学教育学部同窓会が出資し、修復することを決定。
- 平成 29 年 信州大学教育学部同窓会赤煉瓦館として生まれ変わる。



改修前の内部（書庫）

## 2. 「赤煉瓦館」の価値

「赤煉瓦館」の建物としての価値について、3つのキーワードをあげて紹介します。

- 「古い」
  - ・19世紀建築（1895年）で現存するレンガ造りの建物は国内で有数。
  - ・信州大学の中で最も古い建物。
- 「美しい」
  - ・壁は赤レンガで屋根は瓦葺。〈和洋折衷の美しさ〉
  - ・赤レンガ造り（イギリス積み）の2階建て。〈レンガの美しさ〉
  - ・四隅に柱型を赤レンガで表現。建物中央部に帯状に茶系のレンガ（焼過レンガ）を使用。〈デザイン的美しさ〉
  - ・正面に鎧戸（入口）を置き、その左右に窓を設ける。〈シンメトリーの美しさ〉
  - ・内部の1階の床は栗材，2階の床は杉材，小屋組は松材を使用。〈木材の美しさ〉
- 「強い」
  - ・土台は鉄筋コンクリートで補強。
  - ・壁回りに鉄骨を入れ、さらに炭素繊維シート工法で耐震補強。

## 3. 「赤煉瓦館」の利用

1階に会議室（8名程度）ほか、2階にホール（30名程度）があり、学生や教職員、同窓会員が多目的に使える施設です。ゼミ、研究会、講演会、会議、コンサート、展示会などの学術交流や文化交流の場として、ご利用いただけます。会議室には、アンティーク家具や大型蓄音機（イギリス製）、ホールにはグランドピアノ（カワイ）、電子黒板などが設置されています。歴史的な空間の中で、今に生きる人と人が関わり、過去と未来をつなぐクリエイティブな空間となることを願います。



「赤煉瓦館」全景



2階 ホール



1階 会議室